国立国会図書館　　岡釣話 208-144

ガラス使用

208
144

水中釣話 五編全

国立国会図書館　岡釣話 208-144

ガラス使用

水中眺望論 丘釣話 初編

事言

博識ある人或画者に云る事。

うつそ。元天地のうちの愚なる者を画く。見せのくとあるに画立ちぞらく沈吟して。釣を垂るる人物を画博識堂のと擲く感賞し。奇くも。今一編

古キ出ナレド此頃ノ画者ハ多クハ望テノ愚ノ人ニ多シ荘子ナド釣ヲ工ミニシテ知ラザリシナルベシ

国立国会図書館　岡釣話 208-144

ガラス使用

愚なるものを。画くとあるに。画有悉
細策知と云もあつべきやまさる釣人を覧
さある人物を画博識学をうんく
感賞し。妙々々。尤天地のうちの愚
なるもの。此右に出るものの有べくべと
愚愚ッと笑ひもの。題童蒙も口

碑み傳ある一話なり。予その釣する人を
見る人を看く。短きそれに続る。
糸ぐちさくもむそばの。針そのと。
竿そのに云のいはほる浮木苦労。
今まさ愚の字を一ツ増し。先の愚々
を天秤に。考く沈もそのたぐひなり。

国立国会図書館　岡釣話 208-144
ガラス使用

中うちかつきり折ぬようにと。乳筆気
いそがしと。画巧よ云へば愚愚愚愚と
呑らんで。画さへ解知とうにまるせ。
岡目八目。五釣の通まゝ番
ばらく。悪い雛向い掃溜の。穿べ
うよ〳〵仕うら出る。茶売よ漬ても。

ぞよ〳〵も。美某の
餌とぞんのまゝ。
文政元戊寅夏五月神田川よ
五釣の帰岡持の水を硯の海よ
なゝくさ

岡山鳥

国立国会図書館　岡釣話 208-144
ガラス使用

草巻集

奥名十

国立国会図書館　岡釣話 208-144

ガラス使用

神田丹前 岡山鳥述

大洋釣ハ丘釣と拙ゟうと笑ひ。丘釣ハ沖釣を亡命者と嘲哮。釣ぜぞとものゝ釣好ハ海陸何を見ゟうと変せん。四五日前よゟ蚯蚓。茶売よ交ての楽しみ。十六日の薮入の午ひゟ忽ち。ゴカイを用ゐる丘釣ハ渋紙色よゟう一達人ゟゝ一帳を厭ゝぞ。立込の雑釣よ轉筋と知ゝを各其好めゟよいとそれ。身を忘ゝとわくの如し。長べし。慎むべし。

国立国会図書館　岡釣話 208-144

昔丘釣推輿人之肖像

ガラス使用

大千世界。よくくばくうつのるひるあそべ。昼よる鎌倉扇谷の市中去よ。南の富者の庫中より。片側町の淋しくて。平生明店一ツ二ツ。路次を黒白と分ち中ほどへ。たどんやの親仁よどめんやの女房。お長家らうのそげへ小松菜賣。その突當りの左ぐ。掃溜より隣ると長家ゆえ。うら地の菜畠のり。三尺の窓より涼風を納る。商賣何ら分明ぬ。針助と名を呼ぐ。日毎釣よ出歩行人へ主人の茅ぐまう。又ハ女房の伯父さるう。なみさうよ

病を脊頁ひのう辺ぶる食客。煙草ハまぬるで汲ぐう。水ハ水荷よ汲せる史。御家内中が不機嫌で針助ぬらく考る。商ひよ出るあも重荷ハりそだ。軽荷で得利立夫ハるし。不得止事ハ丘釣と出うけ。昼の惣菜のお平皿を振うさんと云。一生の業事るべし。町ぶれの横丁よ。食うそれの岡釣師。平生も竜のうぶよ。梁うぬせしなる間もるく。あぐ三年の汝奥より大奥を釣なめしるうとど。竿右衛へと名を呼ぐ。もうう

国立国会図書館　岡釣話 208-144

ガラス使用

かれこれ式真の箱入の歯ぐろをほこばつて。河岸の村木よりこえてくる。まつ川を一望をる。同氣相もとむる針助。同じ所へ出合がら。ヲイ針公ぢやアねへか。ヲヤ潮へセッニデなア。猶廿八日 雨 晴 昨日 きのふの。きさがそろそろ残ッているうちゴケイをそく夜見勢の始りだら。逢橋の方へめくり出ます人。ほりのまへのこなん。[さ下]とろッきんのおかぢやアねへか。講釋場のうろの材木のそばで釣の見ぶれ 素見 暮そろそろ玉屋アへ奉公に出ていらッしやる。[さ下]とろッきんのおかぢやアねへか。

[さ下]そいつわるくねんな。五食めのうちの。めしを喰ッそろそろ出かけようぶぜ。[さ下]ムウ おらア腹がへッてのうごかれねへ。[さ下]とろッきんのおかぢやアねへか。

[さ下]とろッきんのおかぢやアねへか。

六 ろんぐれのも買べい。[さ下]とろッきんのおかぢやアねへか。昨日 妹が。屋舗へ奉公に出ていらッしやる。そのうち使ひに行てこれと云そろそろ。重箱をさげてくりやアと呼が。どふぞそろそろ返事が長イと思ひ後へ夫そろそろナまつてるうちに。厨の外の水ッでそこで堀そふがごぜへやすよ。コウそれでも今日 きのふはそろそろ後へ。二三日茶売をしてゐた。[さ下]そいつわるくねんな。五食めのうちの。めしを喰ッそろそろ出かけようぶぜ。[さ下]ムウ おらア腹がへッてのうごかれねへ。[さ下]とろッきんのおかぢやアねへか。○抑丘釣の出る考へるよりはつきり脚

国立国会図書館　岡釣話 208-144
ガラス使用

あそこ身をとらるゝ。釣竿大小七八本。三本つぎ。五本七本つぎ。仕掛 水綿の袋よ是をおさめ。餌箱也へハタキの根付。番ハりみを たゝみ込く。別よ四方よう縄をとる。そのうへよ 俎板よ少く。足駄の片くよ穴をあけるそ。又針助。竿右衛門が輩の出立よ。継竿ハばらくにして。糸ハぐるくとまきたつみく五六本。針ハ紙ゆそ巻く留メル。糸纏。あるひハ桐油の切ッぱ。又ハ行燈ごぞれひとくり。半畳よく竿をぐるくとまき。番とともに持そゐる。

一并陶のさとくるゝ。一并摶のさとくるゝ。竿一本の岡ばりへ是出来ぢの釣人そるそ。能よの小竿よよる竿うみを用ゐる。根のある釣人そるそ。我のある釣奥の品よようく。うちぐの道具めとども。ハゝこゝろべ。是ハ叔置針助竿右衛門が両人へ調度そのひ誘引令。うぐ逢橋のたゝとゝろぐ。

竿さんコウおそ大川の岡ばりやアのんきう出ぢり

竿さん。そふよ。おらァ横川ぐの。天神川のと。めうちの方ハ鵜ぐ。

国立国会図書館　岡釣話 208-144

ガラス使用

おそろしいとの頃よあっちの方へ出ようよ。
さア　そよ〳〵後へ。あっちの方へチト出ようよ。
ある〳〵きっと。ある丈け大川ばかりゴウゼトいせんがい
威勢能
せんナア。釣れるよ。
そり　そよ。
おっちをでめてそやちぶ。そうそやア大そよ海鼠ガ大キク
あっことぜ。りのんなんでも二百もつる後へきりやアあっこ
ト。
さア　きのふナ摧のやうふが。十万疋へ
多長アつりに行アがつるっけ。二百五十斗り釣てまやア
ぐっこと。ようそどの海鼠ガ交っるくいるよ。
そり　ハテナ〳〵

たとひ文改革御下も沙魚と多長鰯と黒鯛と同時ニ不釣れバ

小黒鯛
帰
そうぐみよう。ナ。何所のっ
ぢっそよ。きめうよ。とっとやアぶっ
で出るよ。ト　そるーのところ仕来のぞめぐ
ものり手ました。　岡人　ユイ今
云と通ぶありつるもあっそのとうたつそもまっ
るとっぷんとんちんやとうんぐっぷんぐっぷんぐっぷ

そぜだな。ゴウ浮木もそうだ。あゝいふ
物をおくユイちくもうめえんだ。ぶがうツうのくま
しのトゝ云ふところをそぜ川へやうとむかふの
あくえまでいとぶくのあつたところへ岡へあげそこ
ろもまだなんだ。[さ下]からア柵
橋の若宮やくう丁屋さ。どこでもかんでも
ようおりのさ。あめいどこでくうでも買
サ。こゝもテグスがいくちも並どもくう。向の絵師の
ところだそる。[そり]サウヨコくく向の馬船をとえ処。
どうぞそこをなんぞえ。めりやアめいとう」と言ん

ばく。めくの船が出るぶナアリヤアなんでも近郷のほう
のお屋敷だく。紋八が一日くう切で。船もえんがめえて。ト
竿をこうがい大川のまんなかへ出ようとおもうけそこへ[さ下]イヤモないそふ白くぬりたて
ぜ。めの女でえんが本町の江戸の水をつくるだらうが。
大くタアだくう三馬う店へ荷てもめくそく買ま
めえろう。[そり]ちげえ処へく。[さ下]コウ屋根船が。二三
艘はいくめえくのやアめえんだ。[そり]めえやアあえ
志ろ行へう。まるでえ大川へ一向なりんざの。供船ざの
通ひ舟だのサ。[さ下]どうもあらア。いまで堀さの小川

国立国会図書館　岡釣話 208-144

ガラス使用

だのと釣く。歩行く男だくらゐだく。チト
ヲイまつくとゐることをとゝ
小サイ屋形船のやアやんざらうとうぎた無
ているが。喰ものいさゝかも見へ次ぐの。[ろ]コウそを
よくごとごうだ。なうおそアリヤ別業船とゐふものざナゼト
云てこゝる七ツ喰物いくらんる。岡をまつく母をとうふ
やくおまう抓のお爾よ。船中よ菓子重なくる
一ツさ。ソコデるんかもなくー
とう。るんとくだ。おまけよ抓一ト本を弾のよ。そ居る

今ごろ人仇へ曲るぜ。ソリヤどうだ[さ]イヤモウくんまん
くだ。ぢやくおあへへよくくそこを云ことをまつてるぐ
るうの。[ろ]十ニサ七ももめくまくくめ
くうんかのくだおぶくうんけんさ。[さ]そんるうの
向へいる男が。指牙かひくう無くめ。前の所へ
ゐるく捕とけんぐ。いくのかアんぐよ。なう
ホヤアぢのもくう後へ。[ろ]ちめくめアの芳
原くう。安宅の抓ぢをこを買よきことのぐよ。[さ]
エ、とんざりんぐの。舟でを買よくるの。[ろ]

シャムの蹴合ぐ。勝つのドヤア後へ。荏土一さ さア

コウく。あの橋でめっぽう。とてもなまるまろをしてゐ

ぜ。さり アリヤアまろ走よ。アリヤアノ地

藏流くそ。そのざよ。さア 地藏流一ち何さ。さり

アレモとの頃の流行のよ。ちいさな紙へ地藏様とか

ゐて。何萬枚とも極く。ごそのよ。そふをると

後世がやとろ。何がくとろ。云ふのごそよ。去りの

なのゝ細歩が。大キニ小言と云ふよ。ライくサアくといふ。

いう後へとを去ふ。やてぐ〳〵。あんと

あっまり釣なくなるこのト（紙なそこのれの中ふう。松でうくそう。輪と申てホのとろうせへッヨイとなげるうくそをうとをそ終。こぐをユまくこそをまてぐ〳〵りつぷ人の目ねる。あめへ

アいりく春よ。さり そんで。兵よ走よ。さア 針さん見給へのの舟いさふ。

西行東行をるが。あくやアるのぐらうの。

アリヤ追駈舩ぐ。さ〳〵出くと連を。さぶーそのくのよ。

さア そふのコウ。あらア此所の團子を喰てなふいとぶめるよ。今ごれてそちぐ。五ッ宛さて賣團子

（紙なそこのれの中ふう。松でうくそう。輪と申てホのとろうせへッヨイとなげるうくそをうとをそ終。こぐをユまくこそをまてぐ〳〵りつぷ人の目ねる。あめへ 大きさ。）

国立国会図書館　岡釣話 208-144

ガラス使用

へとてだろうど。成るでも見ろ。四ツ宛ぞソレカラ体んでのヲイだァさん。壱ぶを[illegible]菓子盆へ。ちょろけてりんそ赤茶を四五口のみサ。十六文拂ッて。一文つりをとろ[illegible]。そのほうをりろく赤こ。そのほうをりろく赤こ。[illegible]ちとそ。りろく赤こハナ。そのそれぺ。まるで四五口呑んだ釜。そこまるろくの。[illegible]肝をほぶそ。逃出したァみ。今よ其婆さの顔が。眼よ付くいるようだ。[illegible]コイッアなりくって

いさあく行べく。[illegible]そぞろ七ッ八ッをくと生姜の[illegible]いの後く。

とをじゃァなちめよまる後く。四文一合の蹴ぞ。[illegible]両人ハほう飯具をなごさく。向ふの[illegible]弁当をとうひよ。[illegible]水中の魚のうをとる[illegible]

権六さん。おめもいうげんよ。坊さんをおそまつい後く。今朝も洗ちんづさんが。そのこの頃じゃァるんめもち後くで。水までおさんよ。[illegible]釣よだろうおつく居る。そこそ坊を撫べする。[illegible]川だァ浮雲のうっせ。内のめぐ撫もろと。云ハちんとせ。そふしたらおめぶ。そをでも坊さんい

国立国会図書館　岡釣話 208-144

ガラス使用

何ようう釣ゲ。おそまそでござりまそ。そまてよりとくてぶ
まのりまそうら。虚気遣ひござりまりせんッサ。ゐァん
ぞっと。よく虚言斗ゆくぜ。お好みうらくお遊び
ゐさるが。お垂気が出ねくてぐくようござりまそッサ。
ゐねまてくうそうきだぜ。そまてよりとくねくナ。まぜそん
なら坊さんよけのく居ねくよ。おつなるしく。おの
ちゃあぶねくる。そまてよりとくねくお蹴躓ハナヨヤるんぐ。
まてんうどんの粉で。ゐさをこせくきたまぐれ
ゐう聞さる。岡をさまつのくで。おまんま

つぶりりャア。うどんの粉ゲ。喰ゲよふござるゐんぞと人
のそのそのを聞くくらよ。よそまてよりとくねくぜ。をンナ
ちくまそよ。そんなまきやく。ベチャくくく

水をいるの。その其中へ此方をいてさ。かうぜるのぢまだ
云ぐさういくどやァ釣へろ。こゝこゝ釣るのだよッサ。
罪ぢめるへぜ。そをろ旦那へどよそゝをとハイさゝ
ろへぞよ。ゴカイハ氣ろぢ旦ぢゃ。おそゝをろいッサ。おそゝをろ
ろ出ぬへろうぢい。そゝをろと旦ぢァコレサそんな
引ッしゃんな。といろぢうねぢ竿と。かりてん
うけろおいく。そゝをさそゝをろ。かいろがきのの
どやァ抜へぢ。そけぜいぜ。こゝをろ光
どいろくえぜる。なんぢろ。なんぢろ。ぢゃ。

ろんゝゃ。ゴリャろん簪ざしぢ。くァ
屋根舟ぢろう。お客ぢ大そ
そのゝろ。女の声であをさ
声ぢろゝけ。きゝとその
コウく見ぜる。一チろん鰻牡丹よ鈴ぢ付くいらァ。十二
ろゝゃひるよの女ゝの踊子ぢろう。マタッしくぢぶ
針ぢ。ふりそゝをろそ来ろ
ヲヤそのぢぢ大そゝをろ
ろふく。コウもゝその頃よ

遊びよろうぜ。ぜん

国立国会図書館　岡釣話 208-144

ガラス使用

くひしづうぜいくところぐ。きのうんざーを同なそ
もろうぜ。十三そふ云てもまだ今よこへ。掉でもはく
との。ぞろなくしてもこんァる。なるありどちぞん
ぬ。水主せんどうん一ぱきぐくまめうういぐのの。なま
ぎてみか客ぐの。十三サせん水主そうかをぐいく面へうーを
ちくくとこーやくく掛こそもも三年三月。ぜんどうをる
しれ。ぬんぞこと。ぐふぎうこをうそうもれなくしてもこんァ
ぢ面う。つぅはれちうそうもれなくしてもこんァ
な。ヲやく大をんなちくんぐふつくまこむまく逐

ぢうぜ。こともちうとあうちよんな。ヲイこをサ。だを
ぢな。横ッをうぐいそんうぐいな。ハテナうんのかうんぬき
あげうぜ。マチナこをかど用ゐーそ。ぬきをぐ食ぬぐ。
ぐふ云ぬんだらう。ユサくく引ナさんみく。こういーをを
ぐ。ユサくく沙魚ぐうてんの行ね[ふな]春の彼岸
うんん。喰虫ーもそ。そをこぐ水垢ぐ冬ハ沈くく掛ィもそ。春よなるとあぐ
なうくもうにもそぐうくく。水垢が浮也そ。其節を
考てく釣てぐうぐろ。もうとい紋なんぞと。

かゝるそべイ、食乱ごと。男ゝく居る甘うだ。そよむさく。こゝどがいくものゝ。今ごゝァあいくも川よ居るそゝどゝも。橋杜へ天窓と一ッ。ぶッほそゝく。毋がくのゝ推紅くふるのご。高氏がおそぎゝゝゝ。井戸智よ釣あげらゝ。それゝゝ十二ガ大川く放さゝそ。と大キャ声をして。云ゝれごゝも。ぜよしそく。今時ァ井戸ゝゝあく。そぐ直よゝァこゝを紅く。ママくゝ洗盥へ半日もいれらゝゝく。お坊さんのかゝちゃよ。弄抱みさん違チャ。んざゝゝ。擲のぜんさゝたゝッ

くゝるしゝ。鰊の十四五ぬゝ。枚毋ゝゝゝ。ゝゝ。ゝゝちもよご窯くく見せ毋そ。そよゝそれと。ヨウくゝゝの老婆さんご。見めゝゝくャくゝゝ。そゝゝと云くく。裏の大个水へゝゝのてゝれゝ。毋ゝゝれゝゝさんざ。毋ゝゝゝ雨が降べいくゝと。水神さゝん頸をゝけくく。一生の内おゝをゝゝゝの。運の強サよや。二三月ゝゝゝこと大夕立サ。是天の助ケゝゝと。田ヲ道をゝ紅くようよて。此まぐ毋ゝと出そきたゝの。ゾヤヲゝゝと岡鍋で引あ爺

国立国会図書館　岡釣話 208-144

ガラス使用

よふとん。あまりのどがあそ
おれよたとえこと。又さむらいのところを
うて仲間のものが。さむ士身よそうくそちゃ。が不
そをそそべまづく。喰中そめ。きみがころへ。
まんがうしやせう。そ。だくーサ。マテヨ。ちがそサ。
サ鯛飼喰と魚用ゐ。ナンダりそんく。
おれさ抔りで。沈なさんなよ。ふそむさくしるる
りんる。そべけまくも。錐大明神さのきりと

一緒よ。りんごんをふくめらるくなが流ことの
だよ。こんる蚯蚓が食ふのう。おいッアよう
りどがくだ之。パア伊勢屋の丁雅さん。おそが
橋のうよ居る時分。よ通リヤがそらんりん
を渡ッたッけ。コレサ内へ帰ッて。用をたさッせぬた。
番頃よ。眼よあよぜ。そんな
そくぶちのあされ後へようれきふいて。釣タとア
肉所くとん。りん後へぞ。イヤそこそのよ。蚯きも。
がそりおそが仲男の赤らしいりだ。どれく

国立国会図書館　岡釣話 208-144
ガラス使用

丹ぞぬいてくれまいかよう。こいそみまちやく。
いやよわアえ引うけて。あの野郎とまごはちろ
せくやりまそよ。いくらくふ後ぐでおろとして
いろく。ぬいてくやる気ぢやしに。ひきあぐれと。
おれよわアそぐぞ。まそくちの呼とこよ曲ッ
くこちの方へ。ちよいと出く。のよろよ。ドリヤ
ぬいてやりまそよ。ロアイくアそろ。ドレく丹ぐこ。ヤ
アそろ。ドレく丹ぐこ。ヤ人帰りやせよ。[illegible]イヤ用と
仕舞なこ。早くけそくやせよ。エ、何ぐ。バアちんこち。

おアやを一ぢんまこんせそる気ぢる。よう後ぐく。
ざんざの唄とまそ後ぐよやアあるめし。鯉い
和根川ぢこ。いよぎやアぐくる。コイラノ波除や。
乱抗の甲ぐ。ちんこの囲子てメらまそるのこん。
仮ぐちぐうよ。鯉ハ後人の積の種よ。一月だんごと
ひちそくそくも。そくびるだろう。女房の小言
に。そくもるく。仕舞て帰りやな。だくくこんよう
と投網ハめぐるとも。鯉だまにでもだれとまん
後ぐコデだんごぐくれるものか。だんくちんと

国立国会図書館　岡釣話 208-144

ガラス使用

がふみけくらぜん。おらァ志ろう衒人よ。イヤうちの
わろうとうまやせふぺ（此上の方へ行かふと志ろと。地蔵流の。
地がすべれてきく。その目むへびつくりとほく。コウ
こころいぎうだんど。だそでどくびっくりしこと。爰
がうめ。地蔵流ろ。工地義（ぢぎ）だろおしこと（ひだが志）にくく
おそろ。身（み）のうえを考（かんが）ふる。これでも青う志ろんと
そうく。どろう魚（うを）のやうじゃァ衒人う志ろん。釣人（つりて）
でござも。志ろんよいそそ。これを釣（つ）るとよい時候（じこう）も
うんげぜ。約（やく）あげろうそこ所（ところ）がまこポイとやつり
志ますれるし。ぐたる供（こども）のよふな人合（あひ）衒人志ろうまァ。

安楽（あんらく）な身（み）のうえだく。まく外（ほか）の底（した）へゴケイぐ
なくッちゃァ。ゆやぢのヤ」をひでるくッちゃァ。ゆや（芝海老）
だの。といそツーやるぐ。おらァふそんな奢（おご）りこと
こん云（いふ）衒く。志ろうぞのも針（はり）よりもくなる衒人。
コイツがいぢのまたる人せんろうと志ろんて。志ろう
ちろと気（き）をはけく。むまくをそろうやせよ。
でござぶさぐくろうこと。よろこんでくろう。志ろう
イヤく。そのうとんぢ素人（しろうと）ぢござぬ人。毎（まい）をせん衒人。
踊（おどり）ぢぢ。そんだとんちんぢござぬ人。マテトおれぢい。

国立国会図書館　岡釣話 208-144

ガラス使用

こつちゃ古道具でも。若宮ぐ買て来るのだらのとく。どうぞいゝあんべえのよろうなカイヤくとうぐりくドレエ。まつこちのホイコレハシタリ。アくだぐあみぐぶら 傍長参 イヤア先生おれを釣気で歩つうちとまぐつて。針とりそこそこぐらう漆木を横ッなそこへて。水のうへと

毒だる。この男おれぐ嘸をと云のと冥くいつそやア。お前ア長と仕舞るまやア。合せようぐひどとをぐも。アリヤア家初まぐあのまで独ぐ。歩行まん。

のつくあるた中をそ。ひくげんまさをそ歩ひて。牡そこそこととあげるのをそみた後人とにのをそろと。ひくくとり中をそ。ぐよ。さくべ活意よまそぐそ。まぐそをみまそよ。ドレそよ。むもくもなそ美味をそでも後人。よろみくむみがでまくそらだらう。ソリヤうまが横ッなをよまそらよ。せくめくコレまぐ云事があらァ。汐奥まんぞと釣うくまで運く帰ると世話ぐぶ

国立国会図書館　岡釣話 208-144

ガラス使用

よく長いあくびをしてぐっとだらけ
世話が移ッサ。お亀戸川ぞ。そのぞく
水際が大事だぞ。まづ（戯場）の仁老人
さものごとアあるめし。ヨヤくの水ぎわぞ。
なうくん。ソリヤ。こゝを
こゝ[黒鯛子]が。白イ歯を
あの頃此ぐけんぞを釣
どもの五拍子ア。そ
むさくるしい。釣らるゝ。

これの猟師甲。秋のくれ
下タ川。栄代なべ。高尾
なる甲脚あて身を固め。鋼
小蟹もなれば。むき蛤。
そもでもなくこゝ。忽ち
ちと行ん。サアおんぜう竿と
なげだ。ドウダ引移くる。ご
交ッけんものが寄ん移くる
とべ。一日引くるといふ。扨も

国立国会図書館　岡釣話 208-144

ガラス使用

うらやぐら先のやうなどゝ苦労鯛など
扱針助竿右衛門の両人へ仕舞
ぶら〳〵と。逢橋を渡ると
しも舟がでるぞ。出るまでは
ちその。夜見勢の初日だけの
がりぜと。のさ〳〵と釣
どこまでよな。マア終迄の方へ行べい。
コウ俵釈場のうしろの
ようろ〳〵 えやまでもう。傳法が
端
潮

いて。いる後ぜ そふだらうの。毎ア夜そのぜ
ぜんよ。毒とこア後 夜ともろ後今
そなたらのそぐしのよ。基をうつ
ひ釣るカヽコッチノ舩を見
居るぜ。ぞよいよんだろう
なるでと。ト 人形のうなよのうくとそ
ツ沙奥だぜ ちんよナアまあらく。おらア釣
より。舩とろうがもりくなくまと。

国立国会図書館　岡釣話 208-144
ガラス使用

トッコイく エいちくせのあ（出素だ。コウ針さんあの屋根
ぎ 舟をとる男とかとる（沖奥）二人りよ。まっとろく行
る 舟へ男でろう。三人で喰物さんなぎ。どよりよ
りんざろう 男のこ 三人のって。サッくと行こたち。
ありやア場へけるのよ 場とアどのあること
ろう 買よ行のよ。そそでろう。いそぐことそっし
ナ ナアなのどそんなろそやア。いが。男と女と
のく 無く居なァあるやア。なんざ ありのかなァ
ナンダカなやしいそみこうおよでぶ。斯よ云吐を聞くことぶ

あるが。虚だろ。実ぶろ。もろ狩人が。男と女と二人り
のるけを お新の中だぶ。夫婦連く。乗めん
りんでも狩人 ソカアせん州が。まるまっくく
とるもの。マアく軍狩人パそれ二人り乗を。舩ばが
と戸を一ちめい。按ゴのもろ狩人頼ぐ。
の 槽ぐいるけを。そそで無くある男が。戸とろ
ちんたそると。あとぶなく。まるあこたそとぶ。
ま 前ぶなくある。どもろくくろくく。せん州。
と 戸へ一めいどよしたのとパイりますく狩

国立国会図書館　岡釣話 208-144
ガラス使用

とゐッサ。そふそふと男がぞみのなそこりんだなと。
ひどくまとくろ出く云そふと。りちろん女ァだん
まうでおるだらうサ。ソコデせん州が。戸を一チめい
おーやまやァ。舟をおとでァ
るりやせんと云とよ。そのとれてえげな女が。言も
ひろぞよ。ゆくくりとうむくとよ[さ下]エそれ
くらっぞふとよく〳〵[そり]そをとろう男が云よや。百
も兼知どアナ。ぞみぞめてくん後ッドいみくろ
投ごのまとくろ出してクをーとよ[さ下]エ戸をあ

なと。ナニ戸とりーとっぷソレカラッテモ。ぞみーなよく〳〵[そり]
ぞみまとよく〳〵[そり]戸をもつまり。立ッところろ
よ[さ下]エーぞうーなとく[そり]コレサ浮雲後ん。
かッとろるる[さ下]お名後ん。番を派してまちろ
よ[そり]竿をひろりけしてっまをよを後んそ毎く
よく[さ下]そんど噺をと。まく変なろくろ。大きな
損をまをと[そり]虚の。実ろ。鮒後ん吐と。身をれ
てゆまぶ。あるりんろ大ぞろがみでく[さ下]まくと

国立国会図書館　岡釣話 208-144
ガラス使用

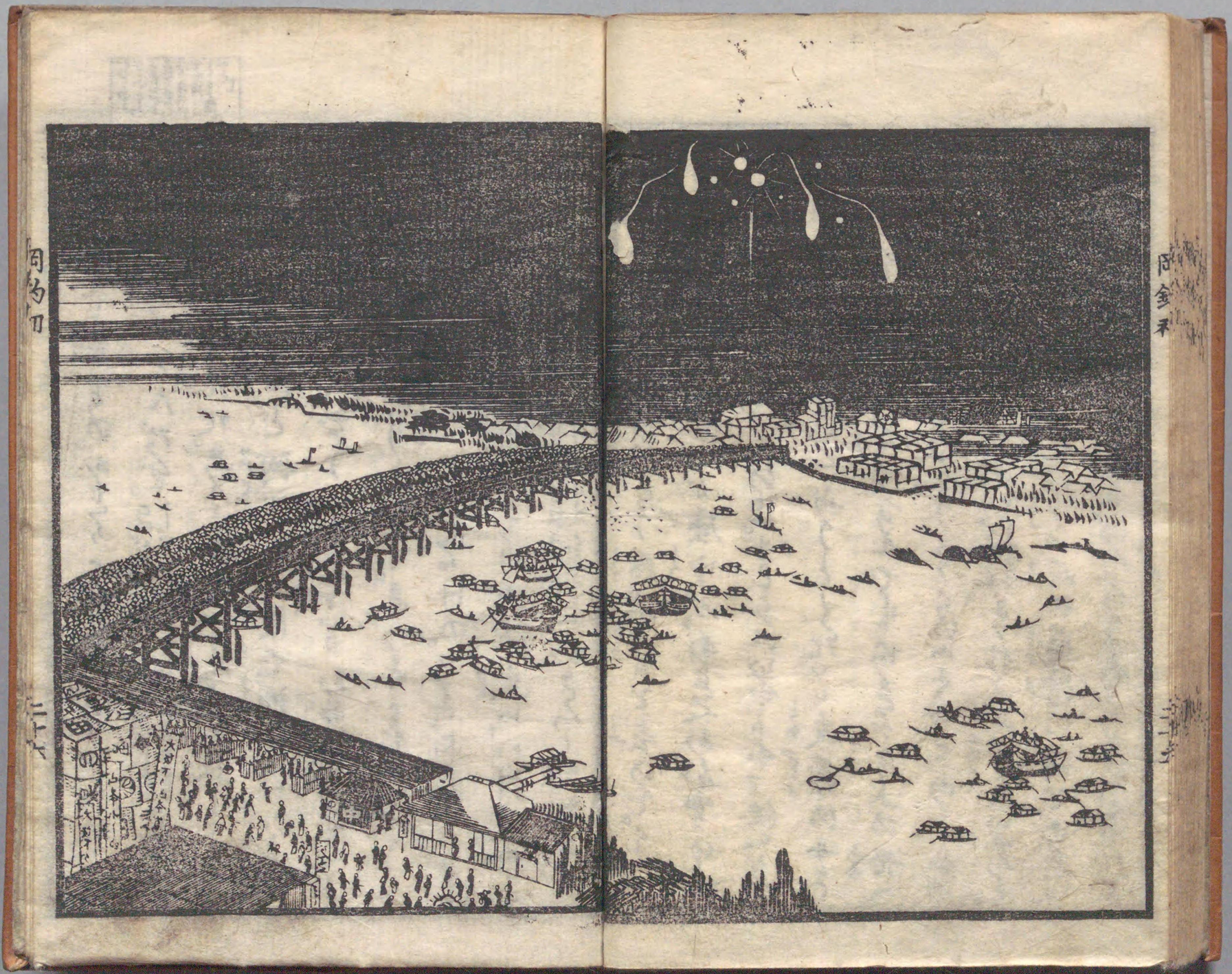
が狩人。あーだっくらまで。野ヤが暮よ岡持で。そらくく出よう[そり]あつてよさう[さか]ナンダグみぢに舩が掛りくるつくぜミサツシ引ぜく。けつこふだるそり[そり]ドレくそんぢ「そもくえとちやうふーみ赤丁目よあがり江戸町。伏見町。二上り綠ヘ。二丁ヨめのウ。竿公。あの引てゐるのア。銅方町だよ[さか]エー舟の舟が。そ奉く行ぜんョらく又来るく「吟よ川風ヲットまつそり。トウザイく。「チヤン花が霞かゝるみが花カ「コハイロとゝそ何の何がーと。名乘わらのやうでもどぜんせん。そう生れい東路よ。イヨく高麗屋アリ。きやうく。サア。一巻く。ヲツ「あのうく二。二「ヲツトあのうく六。七。三。五。三。又行くく。そらそう[そり]コレサそを見より。サそよ王屋の舩が。出て来るぞ[さか]ドレくぞれだく[そり]向よを見給へナ。ソレ赤イ。高張と立てゐくのよ[さか]あもそアグれ。あらア舟ぐお岡帳の迎ひが出てのだと思つて[そり]とんぢとそよそ。ソレくそらそうそれけるそ給へく

国立国会図書館　岡釣話 208-144
ガラス使用

さか アイソぐずもの。きもうく玉やく。
アらくどぶぎんなくあがったぜん。あとやァ何ど
そう黒よ さか ぐずもの。ぜん跡 傳雲く
ト云ところへ後舟一そう。中より女二人のりたるこぎ出
舟のうへより傍へぺくのるの。 ぜん跡 両人きものをつぶんとていり舟
の上より物なげをつくるぐりく
ヨイ ほそき舟だよ。ト 今日 両人ともに。きもうしがりまするー中よりぬのつゝみのもの
元の女うち合。▲ ちよのお客人。きもう
畚舎うとかりくべ。お侍どうの。ぶんどうが。もどろどアウ▲
ぴう餐魚舟ぜ。まものよのかう
サウサあの色のあり黒イお侍どの。ぶんどうくって。

とうぶいなを。ぶつひとう悪漢 清發 真平 を云のと。うけ
ているのまんぴぐ。ソこダガ座中が。あるくあるのぐ
●ソウサ あのくぺくもむくのよ。まとと
アノ臉のようなでっぷりとした。ソレ友善の中きな
しぺとうよな男のぶんでもなをぶちよの舟へ。
萬事のを込とのようそぐ▲そふぜァ
如ぎ跡 ヨウダとふところへぶつこんでをあをぐみそれよ。此男をいやと。
ぶんをとこと戸路さる。の十夕画の蒔繪の揃をあるぜ。
ト云掏子よおとうとうぐ。びうぶぶぶぶ。

国立国会図書館　岡釣話 208-144
ガラス使用



国立国会図書館　岡釣話 208-144

ガラス使用

ま狩人(かりうど)頼(たの)ぐ居(を)とのの。かまぐらく出(で)ろろいッサ。

いくの云(い)ろるさんだぜ。こゐおぢさんとこのおそろさんとこのおぢさんとこのおそろさんとこのおぢさんとこのおそろさんとこの

いとしまそうの。ゆうて私くしどもへ。まもとよ
ねそくまありたなふどございまもそ私。ぜんぜん
さんが。なげそんなまもせん ソレハふらちな。私ぢで
ござる。其限主人へ申ませう。
ヲヤくぜひいとしまそよ私。そふ申ず訳どやアどざいま
せんよ。今見へりまもとにおりをまるで。申ござりを
いとしまそ。まとよおりげさるまで気へつまらぬ。ノウ▲
ソウサぶ一分だろう。ヤまそ
うくまで十七八といふ女ぶりの風呂敷つゝみそ。ヲヤ
まるおきそ。ろくとうのぢちよきがなの女

さんか。なそまよ▲ヲヤ丹の西さん。モウそれ切
おまへさんがこゝへエ▲アイちよつぼ小便
玉屋くく。いまくしん。そふぐしくつて。ろくまる花火も
ろくまる紅人トいふ半紙ぶんそれをそうめ気のまろ紅人。そばやぢやア紅人ろ。眼ヱあつて歩行
サくく。そばやぢやア紅人ろな。あくやア五色の茶漬だノ
まそ。コッチノうちが気がまろ紅人のぐらト半紙ぶんぐらの
まそ。ユウ引 さて ユーてべうがうに。所とけぶくく。

岡釣話初編終

国立国会図書館　岡釣話 208-144

ガラス使用

208
144

附くり
針助竿右衛門の両人見より本庄辺別業などへ乱入して
咎られ。ほうくの躰ゆく。迯出し気場の釣まで水中へ
轉落。ありさまの可笑き大両の後真堀の夜網
ゆく。四ツ半よ。大魚をもきうろうろ
鰻釣よ。小蛇をほり出して。狼狽とる。玉川の。鮎釣。
不案内にて。里童よ。索落る
著し。四方君子の。覧よ備よ。

戯作者　岡山鳥
画師　錦亭鳴虫

岡山鳥　岡釣話二編　三冊　岡山鳥作
（揚名一面）　大當利　三冊　岡山鳥作
廿三夜より餘奥　如月稲荷祭　三冊　岡山鳥作　歌川國貞画

文政二年
正月吉日
江戸書肆
通油町　鶴屋喜右衛門
深川六間堀町　堺屋國藏梓

国立国会図書館　岡釣話 208-144
ガラス使用

208
144

国立国会図書館　岡釣話 208-144

ガラス使用

国立国会図書館　　岡釣話 208-144

ガラス使用